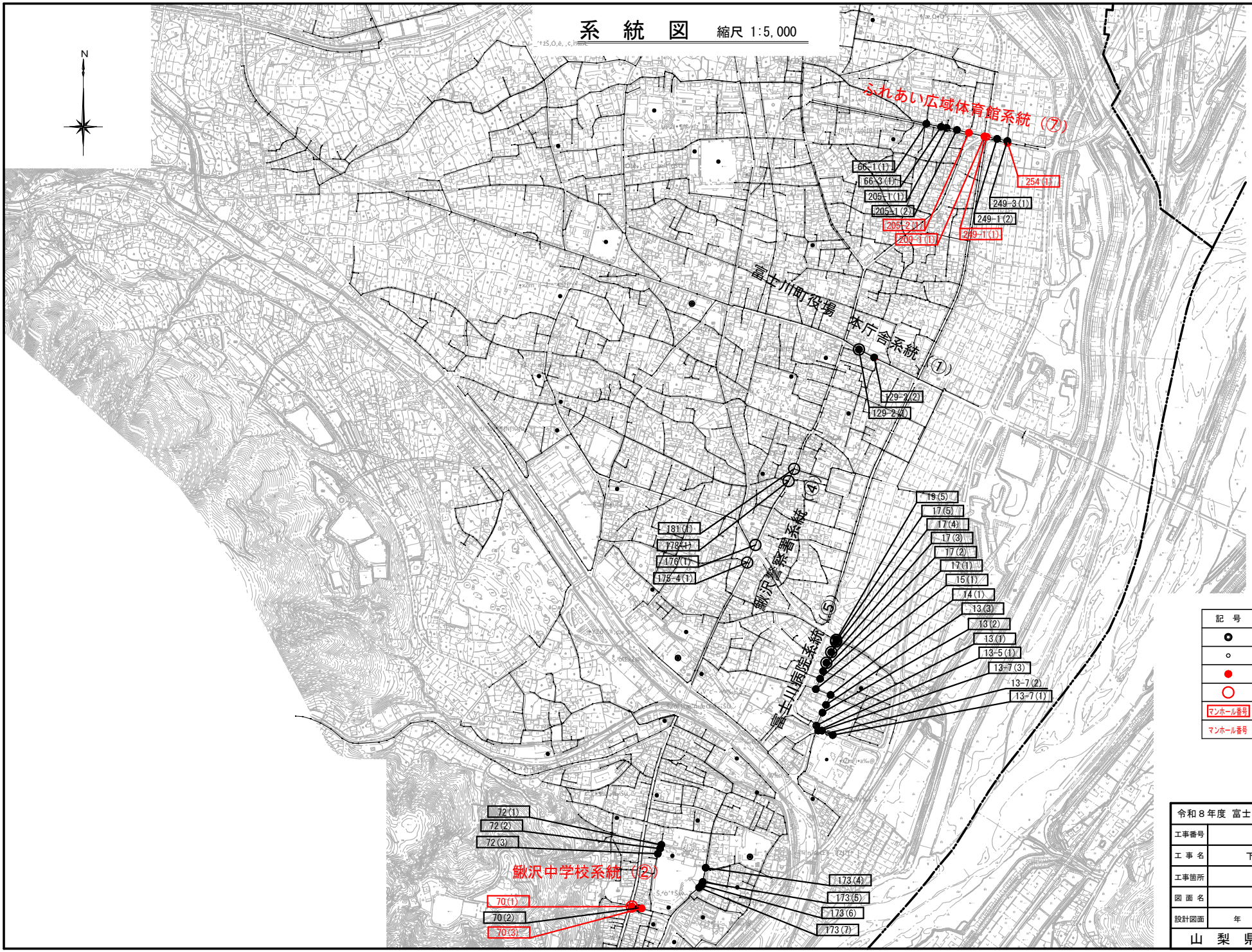
系　統　図　縮尺 1:5,000

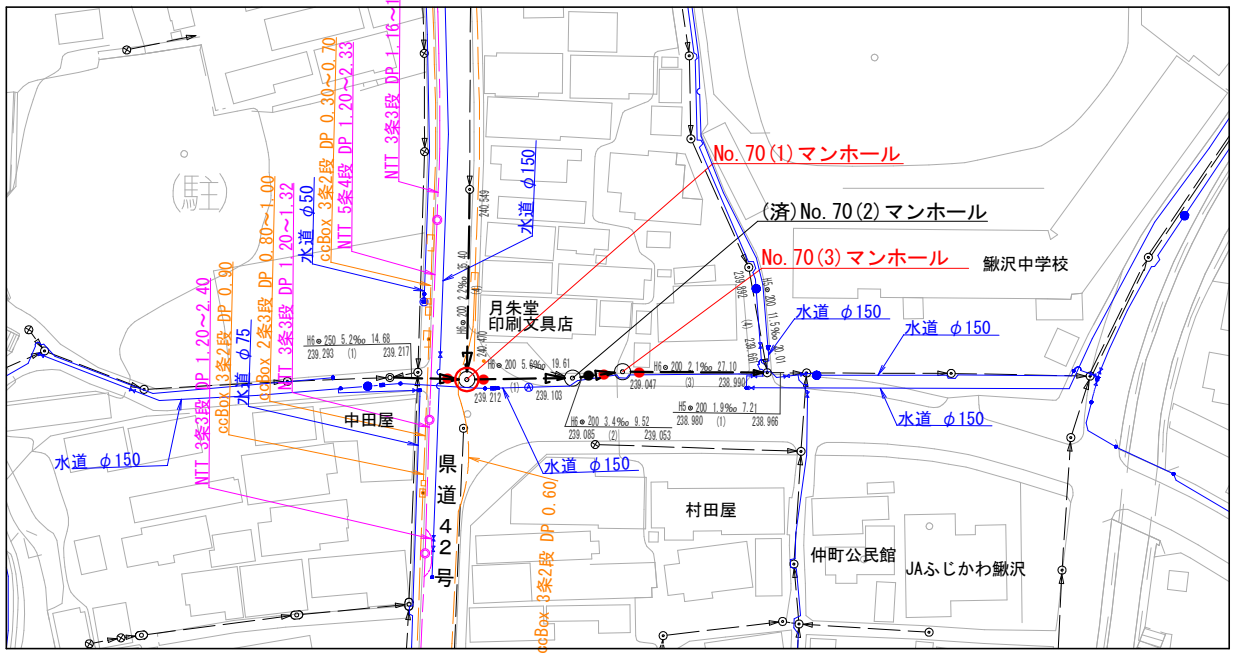


凡　例

記　号	名　称
◉	防災拠点
○	災害拠点病院・指定避難所
●	継手対策箇所
◯	マンホール浮上防止対策箇所
マンホール番号	施工対象マンホール
マンホール番号	施工対象外マンホール

令和８年度 富士川町公共下水道工事設計図			
工事番号		図面番号	1/5
工 事 名	下水道施設耐震化工事		
工事箇所	富士川町　地内		
図 面 名	系　統　図		
設計図面	年　月　日	縮　尺	1:5,000
山　梨　県　富　士　川　町			

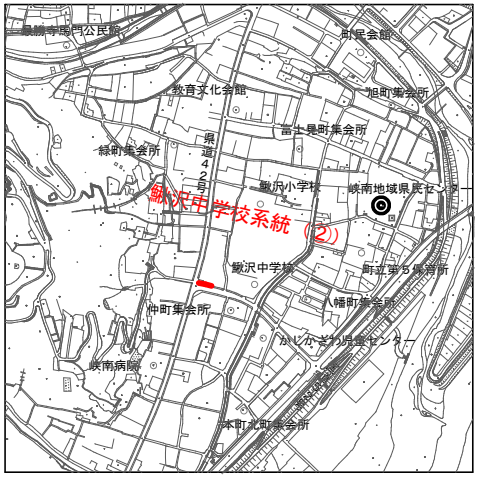
平　面　図（６）　縮尺1：500



対象路線	路線番号	既設マンホールの諸元			管渠の諸元			管渠・マンホール接続部耐震化		マンホール浮上防止対策※	備　考
		マンホール番号	マンホール種別	マンホール規格	管種・管径			非開削耐震化工※	施工方法※		
鰍沢中学校系統	70	70(1)	組立1号	プレホール	上流①	硬質塩化ビニル管	φ200	×	―	消散弁	外副管で塩ビ管の為管口施工不可
					上流②	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	70	70(2)	組立1号	プレホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	×	―	―	偏心量大、管近接：9cm
					下流	硬質塩化ビニル管	φ200	○	B		
	70	70(3)	組立1号	プレホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ200	○	A	―	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ200	○	A		

※　○：施工箇所
　　×：施工不可箇所
　　―：施工対象外箇所
　　済：施工済箇所
　　A　：非開削耐震化工（既設人孔改造工）
　　B　：非開削耐震化工（NS切削工法）

案　内　図　縮尺1：10,000

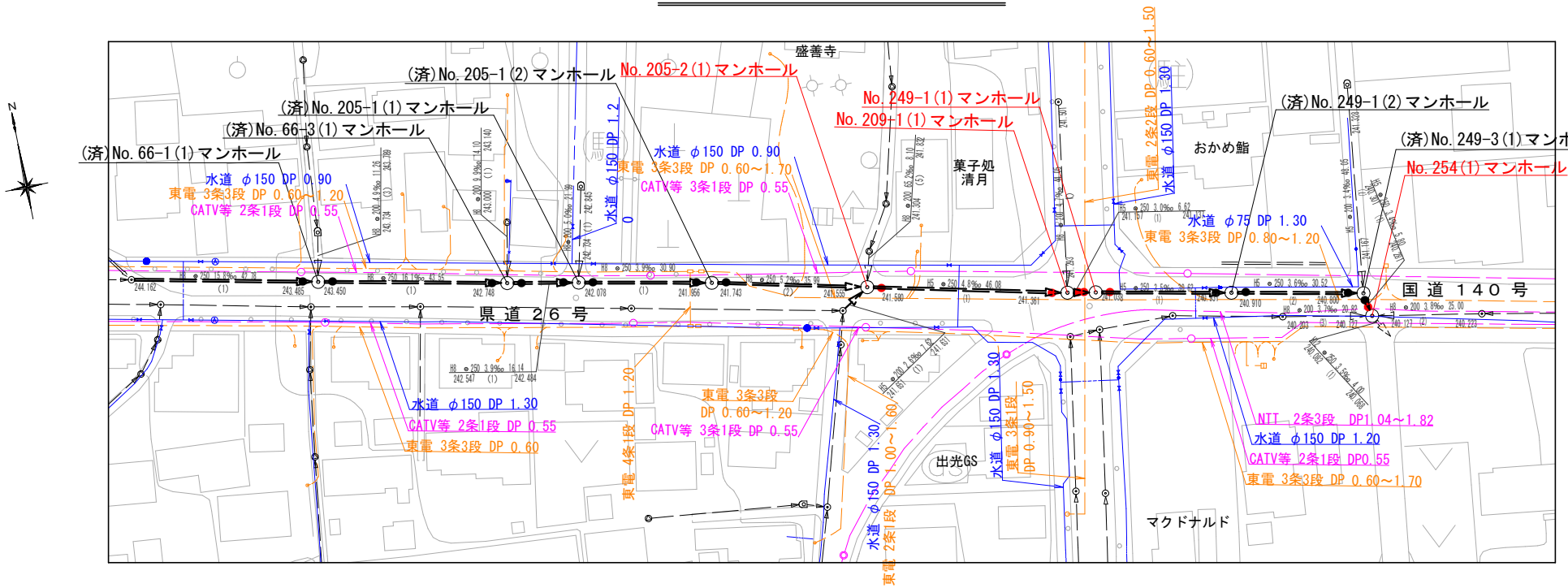


凡　例

記　号	名　称
═══▷	既設　幹線
――▷	既設　枝線
--◎--	既設　組立　1号マンホール
--◎--	既設　組立　2号マンホール
--◬--	既設　塩ビ製小型マンホール
------	水道管
―― ――	東京電力地中線
―― ――	NTT地中線
●	管渠・マンホール接続部耐震化箇所
○	マンホール浮上防止対策箇所

令和８年度 富士川町公共下水道工事設計図			
工事番号		図面番号	2/5
工 事 名	下水道施設耐震化工事		
工事箇所	富士川町　地内		
図 面 名	平面図（６）		
設計図面	年　月　日	縮　尺	図　示
山　梨　県　富　士　川　町			

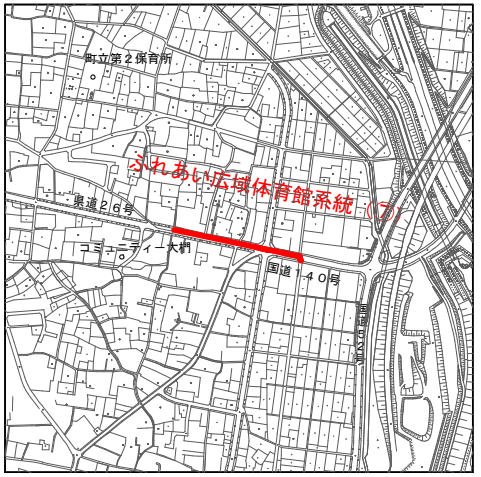
平　面　図（９）　縮尺1：500



対象路線	路線番号	既設マンホールの諸元			管渠の諸元			管渠・マンホール接続部耐震化		マンホール浮上防止対策※	備　考
		マンホール番号	マンホール種別	マンホール規格	管種・管径			非開削耐震化工※	施工方法※		
ふれあい広場体育館系統	66-1	66-1(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	—	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	66-3	66-3(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	—	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	205-1	205-1(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	—	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	205-1	205-1(2)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	—	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	205-2	205-2(1)	組立1号	ユニホール	上流①	硬質塩化ビニル管	φ200	×	—	—	管近接：8cm
					上流②	硬質塩化ビニル管	φ250	×	—		管近接：8cm
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	209-1	209-1(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	済	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	249-1	249-1(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	済	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	249-1	249-1(2)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	済	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	249-3	249-3(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	済	
					下流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A		
	254	254(1)	組立1号	ユニホール	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	○	A	済	

※　○：施工箇所
　　×：施工不可箇所
　　—：施工対象外箇所
　　済：施工済箇所
　　A：非開削耐震化工（既設人孔改造工）
　　B：非開削耐震化工（NS切削工法）

案　内　図　縮尺1：10,000



凡　例

記　号	名　称
═══▷	既設　幹線
———▷	既設　枝線
--◎--	既設　組立　1号マンホール
--◎--	既設　組立　2号マンホール
--◎--	既設　塩ビ製小型マンホール
------	水道管
— — —	東京電力地中線
———	NTT地中線
●	管渠・マンホール接続部耐震化箇所
○	マンホール浮上防止対策箇所

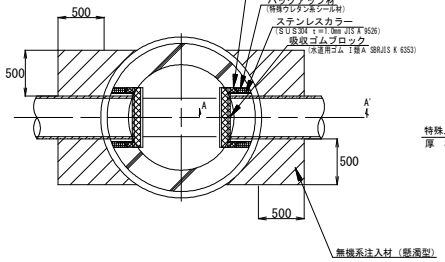
令和８年度 富士川町公共下水道工事設計図			
工事番号		図面番号	3/5
工事名	下水道施設耐震化工事		
工事箇所	富士川町　地内		
図面名	平面図（９）		
設計図面	年　月　日	縮　尺	図　示
山　梨　県　富　士　川　町			

非開削による管渠・マンホール接続部耐震化標準図（1）　縮尺 フリー

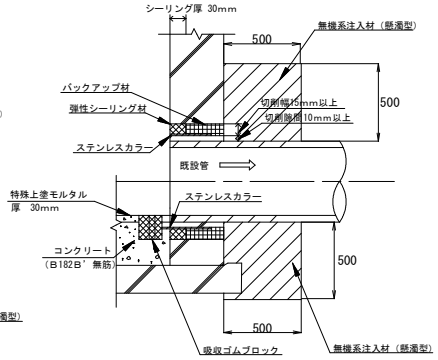
A. 非開削耐震化工（既設人孔改造工）

非開削部

平　面　図



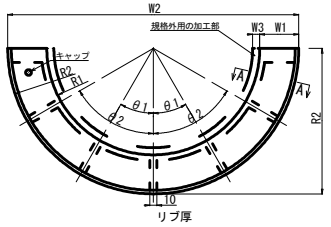
断　面　図（A-A'）



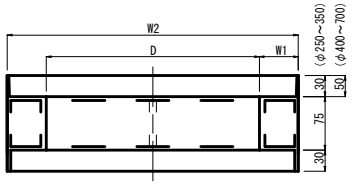
吸収ゴムブロック標準図

（水道用ゴムⅠ類A　SBR　JIS　K　6353）

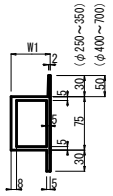
立　面　図



平　面　図



A-A断面図



規格品寸法表							
内径D	R1	R2	W1	W2	リブ数	θ1	θ2
250	125	178	53	356	3	45°	
300	150	205	55	410	3	45°	
350	175	232	57	464	5	22.5°	45°
400	200	260	60	520	5	30°	60°
450	225	288	63	576	5	30°	60°
500	250	317	67	634	5	30°	60°
600	300	375	75	750	5	30°	60°
700	350	433	83	866	5	30°	60°

リブ位置

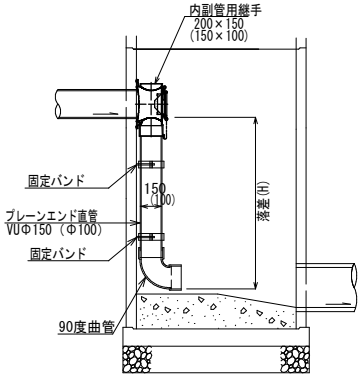
※記載数値は、標準的な寸法とする。
※規格外の場合、寸法W3を調整し内径とあわせる。

対象路線	路線番号	マンホール番号	マンホール種別	管種・管径			土被り(m)	吸収ｺﾞﾑﾌﾞﾛｯｸ	管口耐震化工	止水工	備　考
富士川町役場本庁舎系統	129-2	129-2(2)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ200	2.38	－	－	－	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	3.12	内径250m用	○	○	
	129-2	129-2(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.44	－	－	－	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	3.27	内径250m用	○	○	
富士川病院系統	19	19(5)	組立２号	上流	硬質塩化ビニル管	φ200	4.14	－	－	－	内副管撤去・復旧（2箇所）L=0.45m, L=1.35m
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	4.16	内径250m用	○	○	
鰍沢中学校系統	70	70(1)	組立１号	上流1	硬質塩化ビニル管	φ200	2.13	－	－	－	
				上流2	硬質塩化ビニル管	φ250	3.31	内径250m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	3.32	内径250m用	○	○	
	173	173(7)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ300	2.36	内径300m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ300	2.38	内径300m用	○	○	
	173	173(6)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ300	2.29	内径300m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ300	2.31	内径300m用	○	○	
	173	173(5)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ300	2.24	内径300m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ300	2.27	内径300m用	○	○	
	173	173(4)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ300	1.80	内径300m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ300	1.84	内径300m用	○	○	
ふれあい広場体育館系統	254	254(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.73	－	○	○	段差≧5.3cm
	249-3	249-3(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.25	－	○	○	段差≧5.3cm
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.75	内径250m用	○	○	
	249-1	249-1(2)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.33	内径250m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.33	内径250m用	○	○	
	249-1	249-1(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.29	内径250m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.39	内径250m用	○	○	
	209-1	209-1(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.11	－	○	○	段差≧5.3cm
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.31	内径250m用	○	○	
	205-2	205-2(1)	組立１号	上流1	硬質塩化ビニル管	φ200	2.18	－	－	－	管近接：8cm
				上流2	硬質塩化ビニル管	φ250	2.25	－	－	－	管近接：8cm
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.25	内径250m用	○	○	
	205-1	205-1(2)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.25	－	○	○	段差≧5.3cm
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.44	内径250m用	○	○	
	205-1	205-1(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.24	－	○	○	段差≧5.3cm
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.64	内径250m用	○	○	
	66-3	66-3(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.23	－	○	○	段差≧5.3cm
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.42	内径250m用	○	○	
	66-1	66-1(1)	組立１号	上流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.25	内径250m用	○	○	
				下流	硬質塩化ビニル管	φ250	2.27	内径250m用	○	○	

内副管標準図　縮尺 フリー

貼付型内副管

断　面　図



正　面　図

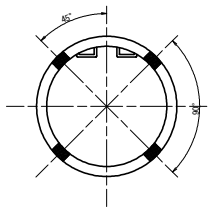
マンホール番号	落差（H）	流入管径	備考
19(5)	0.45m	φ200	
19(5)	1.38m	φ150	

令和８年度 富士川町公共下水道工事設計図			
工事番号		図面番号	4/5
工事名	下水道施設耐震化工事		
工事箇所	富士川町　地内		
図面名	非開削による管渠・マンホール接続部耐震化標準図(1)		
設計図面	年　月　日	縮尺	図示
山梨県富士川町			

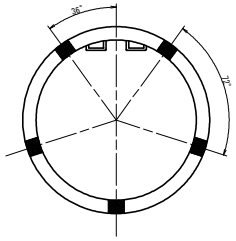
消 散 弁 標 準 図　　縮尺 図示

消散弁取付図　　縮尺 1:20

平 面 図
（1号ﾏﾝﾎｰﾙの場合）

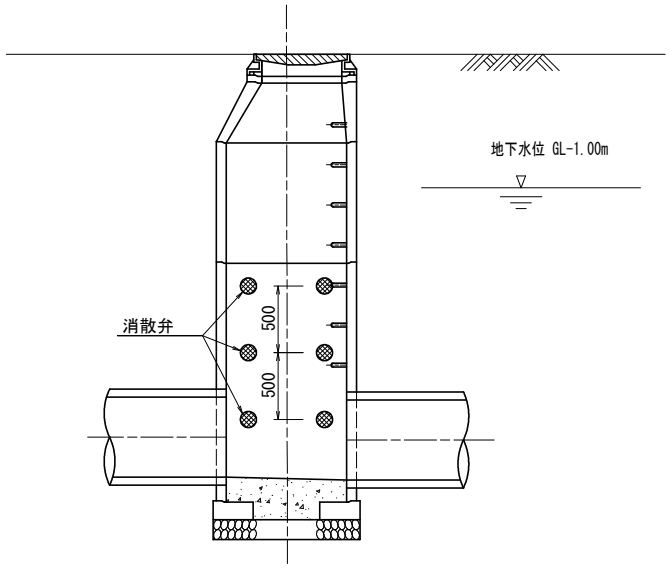


平 面 図
（2号ﾏﾝﾎｰﾙの場合）



※１段当たりの最大箇所数を示す。

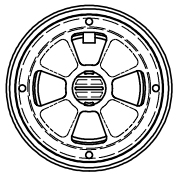
側 面 図



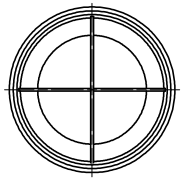
※消散弁は壁面に対し直角に設置する。

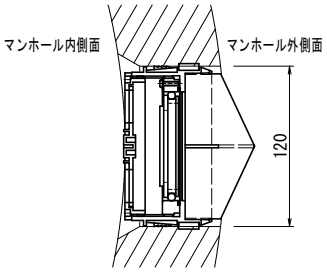
消散弁詳細図　　縮尺 1:2

マンホール内側面



マンホール外側面





消散弁設置一覧表

対象路線	路線番号	マンホール番号	マンホール種別	マンホール規格	マンホール深さ（m）※	マンホール壁厚（m）	消散弁設置位置（GL-）	消散弁規格（MPa）	設置個数	延長ｿｹｯﾄ個数
鰍沢警察署系統	178	178(1)	組立1号	ﾌﾟﾚﾎｰﾙ	3.54	0.075	3.15	0.05	3	0
	181	181(1)	組立1号	ﾌﾟﾚﾎｰﾙ	3.83	0.075	3.43	0.05	3	0
	175-4	175-4(1)	組立1号	ﾌﾟﾚﾎｰﾙ	3.85	0.075	3.40	0.05	3	0
	176	176(1)	組立1号	ﾌﾟﾚﾎｰﾙ	3.88	0.075	3.46	0.05	3	0
鰍沢中学校系統	70	70(1)	組立1号	ﾌﾟﾚﾎｰﾙ	3.57	0.075	3.13	0.05	4	0
							合　計	0.05	16	0

（※）マンホール深さ：GL－底版下端までの長さを表す。

【消散弁設置の留意事項】

1，非開削による既設マンホール耐震化工法が既に施工されているマンホール、あるいは、将来施工が計画されているマンホールについては、管外径＋３０ｃｍを確保する。
2，消散弁の１段目は、インバート上部＋１５ｃｍとする。
3，消散弁２段目、３段目は、それぞれ下段消散弁地位置＋５０ｃｍとする。
4，流入・流出管の位置及び管径により消散弁が設置できない場合は、担当者と協議する。

令和８年度 富士川町公共下水道工事設計図			
工事番号		図面番号	5/5
工 事 名	下水道施設耐震化工事		
工事箇所	富士川町　地内		
図 面 名	消 散 弁 標 準 図		
設計図面	年　月　日	縮　尺	図　示
山 梨 県 富 士 川 町			